

福祉施設との連携による取組事例

〔岩手県一関市〕

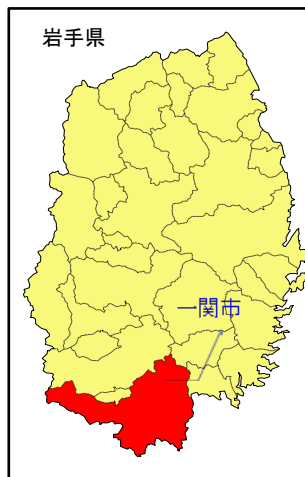
いちのせきし

1. 地域農業の状況

- 一関市は、岩手県の南端に位置し、東西は約63km、南北は46kmで、県内では2番目に広大な面積を有している。

気候は、年間を通じて比較的温暖で適度な湿潤に恵まれており、農業に適した地域。

- 北上川流域は、平野部の肥沃な土地に恵まれており、自然的条件と地域の特性を生かし、米、畜産、野菜、花き等を組み合わせた複合経営を展開。



- 本件の取組が行われた須川パイロット地区では、国営の農地開発事業（昭和45年事業着工、昭和62年完了）により約630haの農地が整備され、そのうち畑地では、桑、ブドウ、葉たばこを中心に栽培が行われたが、農産物価格の下落による経営悪化や後継者不足などの諸事情により作付をやめる農家が多く、その後の利活用がなされないまま耕作放棄地化した農地が多く発生。

- 耕作放棄地の所有者は、土地改良賦課金を負担していることから、引受け手と所有者との権利調整によるマッチングが課題となっていた。

耕地面積	18,300ha	総農家数	12,838戸
田耕地面積	12,300ha	自給的農家数	3,434戸
畑耕地面積	6,000ha	販売農家数	9,404戸

資料：耕地面積統計（H26年）、2010年農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	社会福祉法人 平成会	地区名	須川パイロット地区
再生面積	11.7ha（うち交付金活用6.8ha）	取組年次	平成20年度～平成22年度
作付作物	さつまいも、かぼちゃ、じゃがいも	販路	地元スーパーで販売

（1）社会福祉法人と農地所有者とのマッチング

- 社会福祉法人平成会は、障がい者の自立支援、雇用の場の創出等を目的として、農業参入を模索していたところ、農業委員会や市担い手育成総合支援協議会、土地改良区等が連携して、耕作放棄地となっていた農地所有者との権利調整を行い、平成20年度から、耕作放棄地再生利用緊急対策交付金を活用して、6.8haを再生。同交付金の活用により、土壌改良、営農定着にも取り組み、土壌条件や風が強い立地条件を考慮し、かぼちゃ、さつまいも、じゃがいもを作付。施設利用者である障がい者の能力に応じながら、主に手作業による農作業を実践。

（2）障がい者の自立支援、雇用の場の創出と地域活性化への貢献

- 繁忙期は、地域農家による「地域応援隊」の応援を受けながら、共同して農作業を実施。さらに、平成22年に開設した就労継続支援A型事業所「農業天国」において、障がい者を従業員として雇用し、加工品開発などを実施。収穫物は、干し芋などの加工品を含めて、地元スーパーや青果市場に販売し、好評を得ている。



再生された農地で栽培



加工作業



スーパーで販売

活用した支援策

H20～H22 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）（再生作業、土壌改良、営農定着）